

# 埋文やまがた



2025年3月31日  
web版第16号  
(第72号)



## にしだ 西田 1・2 遺跡発掘調査

調査面積は 10120㎡で、テニスコートで表すと 38 面分ほどの大きさで、約 40 名での発掘調査となりました。

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURAL CENTER FOR ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

〒 999-3246 山形県上山市中山字壁屋敷 5608 番地 TEL 023-672-5301 FAX 023-672-5586

ホームページ：<https://yamagatamaibun.or.jp>

メールアドレス：[yac@yamagatamaibun.or.jp](mailto:yac@yamagatamaibun.or.jp)



HP

X

西田 1 遺跡と西田 2 遺跡を同時に調査しました。調査によって古墳時代・平安時代・鎌倉時代に作られた数多くの遺構が見つかり、人々の暮らしぶりが少しずつ見えて来ました。

### 西田 1 遺跡 (図 2)

平安時代 (9 世紀後半) に建てられた総柱の掘立柱建物 (図 3) が 1 棟見つかりました。倉庫として使われたと考えられます。他には、同じく平安時代の土坑、古墳時代の溝、中世の井戸・柱穴などが見つかりました。調査区の西隣には船橋神社 (春日神社) が鎮座しており、関係する遺構も含まれる可能性があります。

### 西田 2 遺跡

(図 1)

古墳時代では、2 基の方形周溝墓 (図 4・5) が見つかりました。方形周溝墓 1 は、出土遺物から古墳時代前期に作られたと考えられます。もう一方も、近い時期のものでしょう。

鎌倉時代 (13 世紀頃) には、数多くの柱穴、

土坑、井戸 (図 6・7)、溝、そして池 (図 8) が作られました。無数の柱穴の存在は、かつて多数の掘立柱建物が建てられ、さらに何度も建て替えられたことを示しています。

池は庭園を構成するものであること、庭園は寺院に付属することが多いことから、この地に寺院が存在した可能性が浮上してきました。このあたりを領有していた長井氏に近い人物が建立したのでしょうか。付近には同時

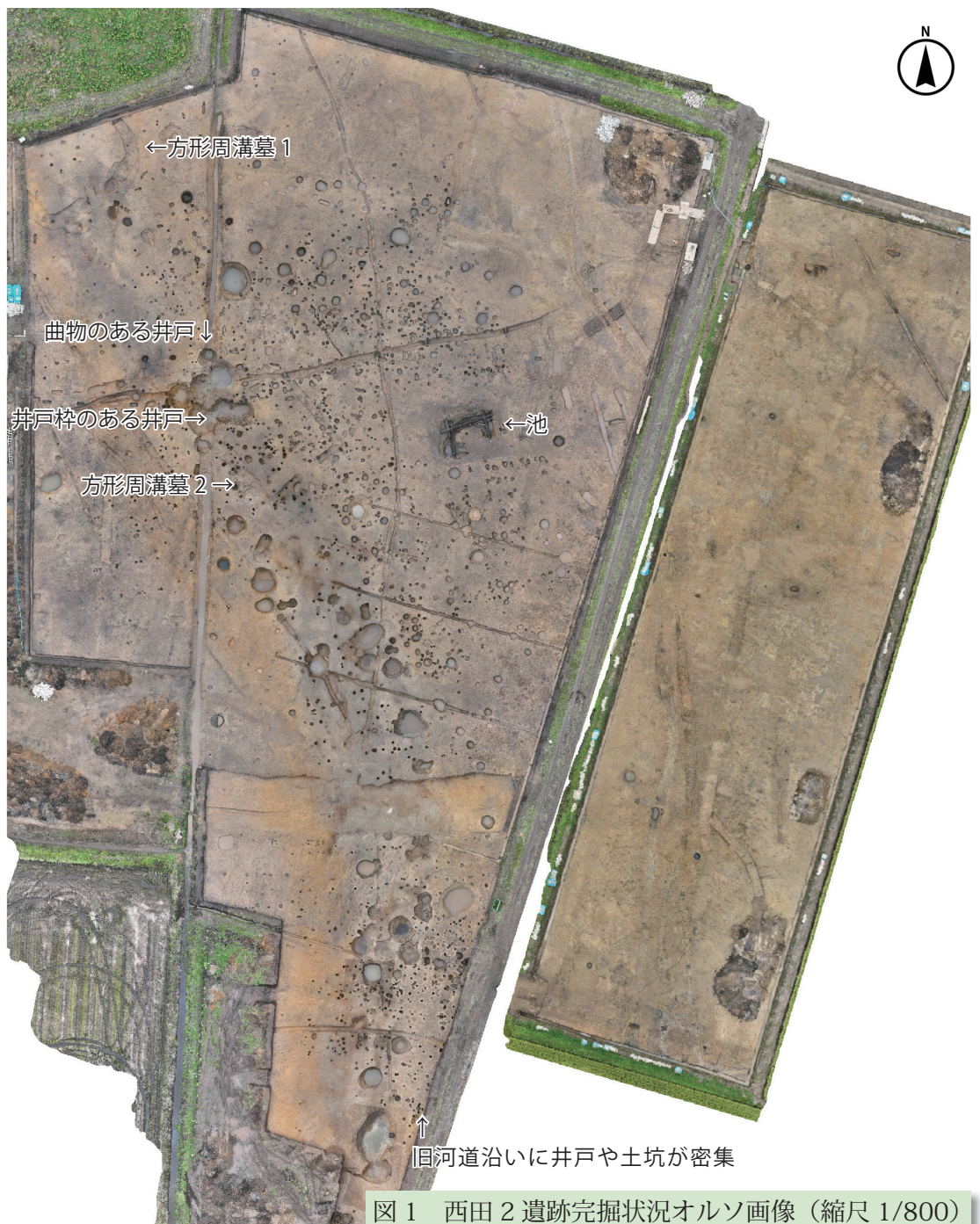


図 1 西田 2 遺跡完掘状況オルソ画像 (縮尺 1/800)



図2 西田1遺跡完掘状況オルソ画像（縮尺 1/800）



図3 西田1遺跡、掘立柱建物（北西から）



図4 西田2遺跡、方形周溝墓1（南東から）

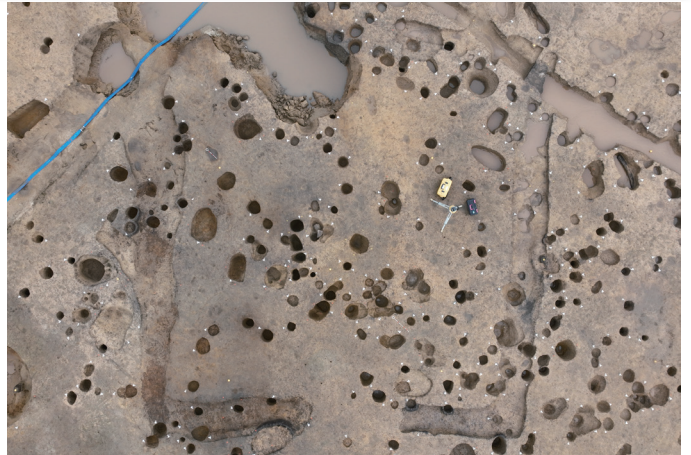


図5 西田2遺跡、方形周溝墓2（南東から）



図6 西田2遺跡、曲物のある井戸（北西から）



図7 西田2遺跡、井戸枠のある井戸（南東から）



図8 西田2遺跡、池（南東から）

代に存在した寺院として、亀岡文殊（当時は文珠寺）、資福寺、安久津八幡神社（もともとは阿弥陀堂）などが知られています。

数多くの井戸が旧河道上に作られていました。旧河道部分は砂地であり、地下水が豊富に含まれています。井戸には、縦板や曲物を設置したものや素掘りのものなどがあります。大型の土坑は水脈を探すための試し掘りの痕跡なのかも知れません。なぜこんなに多くの井戸が必要だったのでしょうか。

若木館跡の調査は、土砂災害防止事業に伴って行われました。調査は調査区を工事用道路建設区・東調査区・西調査区の3か所に分けて行いました。なお、東調査区はさらに上・中・下段に分けています。

工事用道路建設区ではテラス状の平坦面を作り出し、その後に埋め戻されている箇所や江戸時代後半に行ったと考えられる土地造成の痕跡が確認できました。

東調査区の上段では多くの柱穴と溝跡が検出されています。柱穴は直径が小さく、深く掘りこまれる様子がみられました。柱穴の中には直径80cm程のものもありました。中段は範囲が狭いこともあり、トレンチにて地山の地形確認を行っています。下段では平坦面を作り出すための整地層が確認され、斜面側には溝が掘られていました。

西調査区では北側で平坦面を作り出すための整地層が確認されました。整地層の上面からはピットや溝が少数検出されています。調査区の南側では柱穴が集中して検出されました。柱の軸もある程度そろっていることから建物が存在していたと考えられます。この部分は地盤が安定している場所になります。

遺物は15世紀代の青磁や白磁、茶臼や火鉢（風炉？）など、お茶に関する道具が出土

しています。また、同時期と考えられる天目茶碗も出土しました。その他、縄文土器や近世に属する陶磁器、石鉢や埴塙・古銭などが出土しています。

若木館跡は1438年に築城されたといわれています。今回の調査で出土した遺物には15世紀のものが一定数あり、輸入磁器や茶臼など、中世の城館でよくみられるものになります。これらが出土したことから15世紀段階で若木館が館として機能していたことが分かりました。

若木館跡の廃城は1622年といわれています。今回の調査では16・17世紀に属する遺物があまり出土しておらず、その時期の状況ははっきりとしません。今後の検討課題といえます。



西調査区南側で検出された柱穴の集中部。



若木館跡の全景（空中写真）。



工事用道路建設区から出土した遺物。

# 若木館跡 発掘調査説明会

10月7日（月）

若木館跡の調査説明会には、不安定な天候の中 32 名の参加をいただきました。当日は、今回の調査成果である多数の柱穴跡や、大規模に埋め立てて造り出した平場、中世の青磁や白磁、古銭等の遺物が公開されました。



# 西田 1・2 遺跡 発掘調査説明会 11月17日（日）

西田 1・2 遺跡では、数多くの遺構が見つかり、方形周溝墓や大型土坑、井戸、そして西田 1・2 遺跡のメインでもある池状遺構が公開されました。古墳時代の土師器や、中世の陶磁器等の出土遺物も公開され、説明会当日は 50 名の方に参加をいただきました。



## 遺跡体感ツーリズム in 楯山公園&北楯大堰

10月12日(土)

南北朝時代の山城、狩川城が築かれた楯山公園と、世界かんがい施設遺産の北楯大堰で遺跡体感ツーリズムを開催しました。当時の狩川城やゆかりのある地、また普段は立ち入ることができない北楯頭首工を見学し、庄内町集落支援員の坂本慶治氏、高橋耕三氏より北楯大堰の歴史等を解説いただきました。



楯山公園では天候にも恵まれ、遠くまでよく見渡せました



青鞍之淵遺跡碑の前でも解説いただきました



北楯頭首工を見学させていただきました



北楯頭首工は紅葉の頃に来るのもとてもおすすめです

## 発掘された大蔵村の遺跡

9月25日(水)～10月24日(木)  
大蔵村中央公民館

令和6年度市町村巡回展2カ所目は大蔵村です。大蔵村中央公民館2階ギャラリーで、現在常設展示されている白須賀遺跡(縄文時代)と併せ、上竹野遺跡(縄文・弥生時代)の遺物を公開しました。上竹野遺跡は、最も出土量が多かった弥生土器の深鉢や浅鉢、壺、蓋を中心に、土偶や石器を展示しました。10月5日(土)に行ったギャラリートークには23名の参加をいただき、開催期間中には計48名が来場されました。



弥生土器(高鉢)



# 考古学お仕事体験

11月16日(土)

今年も、はじめての方からリピートの方まで、32名の方にご参加いただきました。作業内容に興味を持っていただき、どのコーナーも真剣に、楽しんで体験されているようでした。



拓本体験です。  
土器の文様をうまく  
写し取れました。



注記体験では、  
細かい文字を慎重に  
書きました。



接合体験です。  
文様をしっかりと観察して  
組み合わせました。



質問もたくさん  
いただきました✿

# 発掘された川西町の遺跡

12月11日(水)～1月23日(木)  
川西町交流館あいぱる

令和6年度市町村巡回展3カ所目は、川西町です。川西町交流館あいぱる内の埋蔵文化財資料展示館で、<sup>たゆうこや</sup>太夫小屋遺跡(古墳時代・平安時代)、<sup>だんやまこようあとぐん</sup>壇山古窯跡群(奈良・平安時代)、<sup>やはたにし</sup>八幡西遺跡(中世・近世)の遺物を公開しました。1月15日(水)に開催したギャラリートークには、積雪で足もとが悪い中にも関わらず25名の参加をいただきました。質問をされる方も多く、今回展示した遺物に大変興味を持っていただきました。



# 令和6年度山形県発掘調査速報会 3月2日(日)

山形県生涯学習センター遊学館にて速報会を行いました。令和6年度に発掘調査を行った、史跡山形城跡（山形市）、史跡館山城跡（米沢市教育委員会）、長岡南森遺跡（南陽市教育委員会）、史跡左沢楯山城跡（大江町教育委員会）、そして埋文センター発掘調査の若木館跡、西田1・2遺跡の6件について報告しました。当日は県内外問わず、77名の方に参加をいただきました。



## 令和6年度ふるさと考古学講座

令和6年度ふるさと考古学講座をセンターで開催しました。内部の職員だけではなく、外部の方の参加もあり、センター職員が調査や研究の成果を発表しました。



第1回：1月24日（金）14：00～15：00

「古代出羽国府で働いていた人々と周辺遺跡」植松 暁彦

第2回：2月21日（金）14：00～15：00

「3Dモデルとオルソ画像の作成」高桑 登

第3回：3月7日（金）14：00～15：00

「新庄城二の丸跡の発掘成果―出土陶磁器を中心に―」

菅原 哲文



センターでは、今年は2m以上になる見事な氷柱を見ることができました。



### 編集後記

今年度はじめて発掘作業員を経験された方で、それがきっかけで遺跡や遺物に興味を持ち、センターのイベントに参加してくださるようになった方がいます。大変嬉しく思いますし、本当に何がきっかけになるかわからないので、一つ一つの仕事をより丁寧に行っていきたく感じました。